

巻 頭 言

このたびは、第4回「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 東京」を東京大学本郷キャンパスにて開催する運びとなりましたこと、大変に嬉しく思います。

協賛いただいた皆様、後援していただいた皆様、論文投稿された皆様、参加される皆様、そして、手作りの大会運営を企画し運営している開催実行委員会、運営委員会、事務局の皆様のご尽力に深く感謝いたします。

本全国大会は、「人と環境にやさしい交通をめざす」市民、企業、行政、学識経験者、専門家が一堂に集う交流の場です。これからの都市の在り方、交通の在り方、暮らしの在り方を考える絶好の機会です。それぞれの立場を超えた情報交換が明日のまちを支える原動力となり、新しい交通社会が構築されていく契機となる場です。

「人と環境にやさしい交通をめざす」動機は多様であり、そのめざすところも様々なものですが、お互いの思いを尊重し、その熱い思いが重なることによって、個人にとっても社会にとっても望ましい方向性が見つけられるに違いないと期待しています。

「人と環境にやさしい交通」を実現するためには、少なくとも、強いリーダーシップと市民の支持と確かな技術が必要です。これらの融合がなければ、「人と環境にやさしくない交通」から脱却することは、困難です。クルマ社会の固定観念となった従来の社会的ルールを変えて、新しい「人と環境にやさしい」社会的ルールを確立するため、活発な議論が展開されることを期待しています。

論文発表会で何かが生まれる瞬間を大切に思います。論文発表会に参加することによって論文の文面だけからは伝わらない思いを知ることができる時、発表を聞いて議論を目の当たりにすることによって初めて違う考え方が理解できる時、経験に裏打ちされた直観に深く感動する時、そんな瞬間に出会うことを期待しています。是非、参加者一人一人が、自分の問題意識に照らして、様々な発表の思いを受け止めて、積極的に評価し、意見交換されることを望みます。

生きている限りは、何かをめざして進みたいものです。自分の幸せだけではなく、大切な誰かを幸せにしたい。近い将来、人と環境にやさしい交通をめざす皆さんの思いが、人と環境にやさしいまちを芽生えさせ、育てることを信じて、皆さんとともに、一歩ずつ、進んでいきたいと思えます。

東京大学大学院都市工学科教授 原田 昇

(「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 東京」運営委員会委員長)

第4回東京

目 次

○ 各分野の報告・提言

1. 新たな技術を考える

141教室、座長：出町 敦、副座長：小笠正道

No	件 名	発 表 者	ページ	発表時刻
1	L R Vの電化／非電化線、軌道／鉄道線の相互直通に向けた技術 －架線・バッテリーハイブリッドL R V「Hi-tram」の鉄道線走行－	(財)鉄道総合技術研究所 小笠正道、田口義晃 四国旅客鉄道(株) 末包洋士	1	原則 9:00 12:00 1件当り 質疑応答 を含め 約13分 全体討論 約20分 詳細は 座長一任
2	L R T・バス共用走行「複合交通システム」 －市街地外縁部への展開－	(財)鉄道総合技術研究所 前橋栄一、小笠正道	3	
3	「動くサービスエリア」：新Ro-Ro列車方式交通システムと導入効果 －幹線道路交通による外部不経済問題の抜本的解決策－	(財)鉄道総合技術研究所 川口 清	5	
4	逆踏面勾配自己操舵輪軸に関する研究	東京大学 生産技術研究所 林 世彬	7	
5	技術開発から人の開発へ	自動車環境問題NGO「Z E V E X」 鈴木一史	9	
6	G Sユアサにおける環境対応自動車用電池開発	ジーエス・ユアサ・コーポレーション 研究開発センター 奥山良一	11	
7	新デバイスを適用した急速充電システムの提案	S E V会員 木下繁則	13	
8	内燃機関に関する可能性への試み	東京電機大学 理工学部 機械システム研究愛好会 大川健太	15	
9	国内で初めて導入されたE Vタクシー	長岡技術科学大学 齋藤和夫	17	
10	低床型電気コミュニティバスの開発と環境モデル都市 富 山での実証運行	北陸電力(株) 技術開発研究所 森野弘樹、元平 茂、松本安弘	19	
11	ハイブリッド電池駆動L R Vによる走行特性と省エネ効 果	福井大学 荻原 隆 大研化学工業 山中重宣、愛清 仁 エナックス 小沢浩典	21	

2. 各地域の取組みから

142教室、座長：清水康二、副座長：塚本 敬

No	件 名	発 表 者	ページ	発表時刻
1	持続的な住民参加による提案型のみちづくり	(N)調布まちづくりの会・武蔵境通り住民協議会 大和田清隆、辻 邦夫	23	原則 9:00 12:00 1件当り 質疑応答 を含め 約13分 全体討論 約20分 詳細は 座長一任
2	横浜都心回遊性向上を目指す為の企画乗車券に関する考 察及び提案	横浜の公共交通活性化をめざす会 柴田智洋	25	
3	横浜にL R Tを走らせる会の活動	横浜にL R Tを走らせる会 清水康二	27	
4	地域公共交通再生における地方自治体と市民ネットワ ークの役割	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 宝田惇史	29	
5	自治体バスの運行事例と、地方分権に関する若干の考察	法政大学大学院 政策科学専攻 塚本 敬	31	
6	宇都宮市L R T計画に関わる市民意識の動向と合意形成 上の課題に関する考察	宇都宮大学大学院 松田隆太、森本章倫 (株)福山コンサルタント 伊藤将司	33	
7	スマイルアクセス・プロジェクト(サイクルパス実験 3)について	都電網研究会 坂本進吾、藤村建一郎	35	
8	このままではL R Tの実現は難しい	さいたま市の環境と公共交通システム研究会 石原猛男	37	
9	宇都宮地区におけるバス交通の現状と課題	雷都レールとちぎ 倉貫静夫	39	
10	市民団体「雷都レールとちぎ」(栃木県宇都宮市)の活 動報告	雷都レールとちぎ 稲葉克明	41	
11	長野市におけるL R T導入可能性分析	信州大学 高瀬達夫、小山 健 名古屋市中島修司	43	

3. 最新海外事情

143教室、座長：古川 洋、副座長：山内勝弘

No	件名	発表者	ページ	発表時刻
1	フランスの都市交通計画における合意形成 ～ コンサルテーションの位置付けと方法～	(株)アンジェロセック 古川 洋	45	原則 9:00 12:00 1件当たり 質疑応答 を含め 約15分 全体討論 約20分 詳細は 座長一任
2	スペインにおける路面電車の復活	(株)アンジェロセック ジャンピエール・ラガリュ	47	
3	ナント市の公共交通の30年	(株)アンジェロセック セバスチャン・アルノー	49	
4	北欧福祉国家の都市公共交通(Ⅲ) ーストックホルムのLRT計画と部分開業までの考察ー	さいたま市の環境と公共交通システム研究会 小山 徹	51	
5	欧州におけるLRTの最新事情と住民合意	(社)日本交通計画協会 山内勝弘	53	
6	ポートランドとシアトルの新しいLRTについて	宇都宮共和大学 古池弘隆、佐々木賢太	55	
7	西欧ゴムタイヤトラムの最前線	(株)モチバート 森 五宏 京都大学 経済研究所 南 聡一郎	57	
8	フランスのLRTプロジェクトにみる沿線開発の現状	大阪産業大学 波床正敏、塚本直幸、吉川耕司、ペリー史子 和歌山工業高等専門学校 伊藤 雅	59	
9	英・仏のLRTプロジェクトにみる計画段階の現状	和歌山工業高等専門学校 伊藤 雅 大阪産業大学 塚本直幸	61	
10	環境グルネル会議ーフランスにおける交通の変化	在日フランス大使館 経済部 Benoit RULLEAU	63	

4. 交通政策の分析・提言

144教室、座長：室田篤利、副座長：深山 剛

No	件名	発表者	ページ	発表時刻
1	大都市圏における鉄道交通利便性志向の高まりから地方 都市におけるLRTの役割について考える	東京電力(株) 技術開発研究所 青木 仁	65	原則 9:00 12:00 1件当たり 質疑応答 を含め 約13分 全体討論 約20分 詳細は 座長一任
2	高速鉄道の海外展開	(株)三菱総合研究所 社会システム研究本部 深山 剛	67	
3	新しいトラム・トレインをめざしたLRTの仕様について	人と環境にやさしい交通をめざす協議会 大野真一	69	
4	交通機関選択行動に関する一考察 ー人々はどれだけLRTを利用するのかー	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ(株) 室田篤利	71	
5	東京、そして宮古島 ー研究者・住民・観光客の視点からの空港直結LRT新線の提案ー	多摩美術大学 共通教育 勝間研究室 川崎雅道、勝間ひでとし	73	
6	LRTと持続可能なライフスタイル ーLRTは生活をどうデザインできるか？ー	三井物産戦略研究所 プロジェクトエンジニアリング室 室伏謙一	75	
7	鉄道の上下分離について	ジェイアール東日本コンサルタンツ(株) 黒崎 文雄	77	
8	バーチャルリアリティによる合意形成の近況と活用の 要点	パナソニック電工(株) 長濱龍一郎	79	
9	三木鉄道の経営断念と公的補助制度の問題点	(N)環境市民 堀内重人	81	
10	「LRT都市サミット広島2009」の開催結果について	広島市 道路交通局 都市交通部 交通対策担当 三木登士也	83	
11	高速道路無料化と暫定税率廃止の不合理性と代替案	(株)ライトレール 阿部 等	85	

5. 環境・景観・交通まちづくり

211 講義室、座長：佐野 正、副座長：大野寛之

No	件名	発表者	ページ	発表時刻
1	箱根・小田原をモデルとした観光業におけるCO2削減目標達成へ向けて	東京農工大学 野地英昭、佐藤秀明、林 和樹、中山雅行、亀山秀雄	87	原則 9:00 12:00 1件当り 質疑応答 を含め 約15分 全体討論 約20分 詳細は 座長一任
2	2050年CO2マイナス80%シナリオにおける交通～地域に根ざした脱温暖化・環境共生の観点から～	科学技術振興機構 重藤さわ子、堀尾正毅	89	
3	エネルギー・環境問題と公共交通に関する美大での物理学教育<風力、光、小水力の電力でLRTを動かす>	多摩美術大学 勝間ひでとし、三浦 真、亀谷嵩樹、川崎通雅 東京電機大学 鈴木源治 早稲田大学 理工学部 浅井 博	91	
4	自然エネルギーを利用した軌道系交通システムの提案	多摩美術大学 亀谷崇樹、勝間ひでとし 東京電機大学 鈴木源治	93	
5	バックキャストからみた低炭素社会実現のためのTODに関する研究	宇都宮大学大学院 工学研究科 吉儀和恭、森本章倫 東京電力(株) 中井秀信、中村直樹	95	
6	デザインの視点から～街とLRT	sano design office 佐野 正	97	
7	LRT・BRTの駅について	岡部則之計画工房 宮崎貴重	99	
8	知的マルチエージェント交通流シミュレータMATESを用いた自動車排気排出量評価	東京大学 藤井秀樹、吉村 忍、木村佳史	101	
9	環境政策と公共交通の再構築：新潟市の事例から	にいがた環境交通研究会 藤堂史明	103	
10	ITによる人と環境にやさしい交通をめざす「ドライブビューア」	CSKシステムズ中部 谷村修一 立松伸哉 近藤正一	105	

6. カーシェア・自転車・カーフリーデー

212 講義室、座長：藤井 聡、副座長：井坂洋士

No	件名	発表者	ページ	発表時刻
1	市民協働で行う自転車によるまちづくり～さいたまカーフリーデー2009にて～	国際航業(株) 栗原正弥	107	原則 9:00 12:00 1件当り 質疑応答 を含め 約15分 全体討論 約20分 詳細は 座長一任
2	まちづくりと横浜カーフリーデー2009&モビリティウィーク	横浜カーフリーデー実行委員会 大内えりか	109	
3	歴史と自転車を用いたツーリズム～小学生を入れたワークショップ～	国際航業(株) 山崎晴彦	111	
4	地域のツーリズムに活用するための自転車快適さマップの作成	国際航業(株) 花村嗣信	113	
5	パーソナルモビリティの進化	松本デザイン機構(有) 松本正毅	115	
6	中心市街地来訪者を対象としたパーク・アンド・サイクルライドの可能性	(財)豊田都市交通研究所 山崎基浩、安藤良輔 (社)環境創造研究センター 原 理史 名古屋産業大学 伊豆原浩二	117	
7	カーシェアリングと公共交通との連携をめざして	オリックス自動車(株) カーシェアリング企画部 高山光正	119	
8	筑波大学におけるカーシェアリングシステム～需要予測と導入概要～	筑波大学 都市交通研究室 谷口綾子、水谷亮介 ユーピーアール(株) 宍戸隆志	121	
9	カーシェアリングへの加入が交通行動に及ぼす影響分析	(社)システム科学研究所 調査研究部 矢野晋哉 京都府 建設交通部 交通政策課 仲尾謙二 オリックス自動車(株) 高山光正 京都大学大学院 藤井 聡	123	
10	京都府におけるカーシェアリングの普及に関する事例報告	京都府 建設交通部 仲尾謙二 (社)システム科学研究所 調査研究部 矢野晋哉 オリックス自動車(株) 高山光正 京都大学大学院 藤井 聡	125	

○ 人と環境にやさしい交通を提供する企業の取り組み

人と環境にやさしい交通への取り組み ～三菱重工のご紹介～	127
人と地球にやさしい低床電池駆動LRV「SWIMO」	129
人と環境にやさしい交通を提供する企業の取り組み（三井物産プラントシステム）	131
特殊ポリウレタン製防振材とスリップフォーム工法による安価かつ高性能LRT制振軌道	133

○ 人と環境にやさしい交通の実現をめざす地域の取り組み

宇都宮市（北村秀哉）	135
豊島区（池袋の路面電車とまちづくりの会）	137
横浜市（小田部明人）	139
相模原市（佐藤 修）	141
新潟市（大野眞一）	143
金沢市（杉山奈津子、浪瀬佳子、赤松志津）	145
福井市（清水省吾）	147
京都市（木村 裕）	149
堺市（塚本直幸）	151
岡山市（岡 将男）	153
北九州市（杉山奈津子）	155
福岡市（杉山奈津子）	157

○ LRT&BRTデザインコンテスト

作品審査を終えて（井上晃良）	159
A部門（優秀賞1点、入選1点）	160
B部門（グランプリ1点、優秀賞3点、入賞10点）	161
C部門（グランプリ1点、優秀賞3点）	164

○ 付 録

LRT推進議員連盟名簿	171
LRT都市サミット広島2009 サミット宣言	172